どろんこアート

〈素材との出会い展～土と造形〉　造形スタジオの活動

天然の建築素材（素材と）として前回されてきた〈土〉はどこでも手にいれることができる素材です。しかも、泥のような液体から、粘土のようにやわらかいもの、焼き物のような陶器のようなものというように、さまざまな姿を持っています。造形スタジオでは、素材としての〈土〉から出発が起こされるイメージを大切にしながら、子どもたちが自然に造形を発展させるようにプログラムを考えて、行っています。

左ページと今年の一回の夏休み特別展示で行われている〈素材との出会い展～土と造形〉の活動を紹介します。今年も、さまざまな〈土〉を使った、楽しいプログラムがいっぱいあります。

泥のような〈土〉

泥は液状なので、それ自体では〈形〉を作ることはできません。しかし、布や紙、木などにしみこんで、布や紙などの繊維をしみ込む性質を持っています。

〈ドロ・ドローイング〉〈上〉＝泥を使ってドローイング（絵を描く）プログラムです。紙の上に泥を薄く塗り、乾く前にとがったもので表面をひっかき、絵を描きます。泥を乾燥させて完成。水彩に近い絵のような、素朴な絵ができあがります。

〈クレイ・フラッグ〉〈下〉＝泥を使った一種のろうけつ染めのような布に泥で絵を描き、それを染めます。泥が繊維をしみ込むので、泥の部分は生地のまま染まりません。今回はふじの花弁を作りました。

粘土のような〈土〉

粘土も〈土〉の一つの形です。自由に形を変えられる、作ったものがそのままの形を保つことができる、ものの形を写し取ることができる、などの性質を持っています。子どもたちにとって、一番身近な〈土〉といえます。

〈デコボコ缶〉〈右〉＝形を写し取ることができる性質と回転に形や模様がつけられる性質を利用したプログラムといろいろなものの形を粘土に写し取り、それに手を加えて缶を作ります。

〈指にみえるかな？　石の形〉〈下〉＝デコボコ缶に似たプログラムですが、今度は型ぬきで形を写し取ります。それに粘土を足したり引いたりして、石の形やイメージしたものを作り上げます。

〈リング・リング・リング〉〈左下〉＝自由に形を変えることができる、作った形がそのまま保てるという性質を使って、円筒状のものを作ります。粘土の輪をたくさん作り、それを筒にはりつけ、輪と輪をつないでいきます。最後に筒を抜き取って完成。

硬い〈土〉

土を乾燥させたり、焼いたり（焼成）すると「硬いもの」に変ります。日常しんのがや陶磁器のようなものです。〈土〉という感じはしないかもしれませんが、これも〈土〉です。

〈クレイ・ストーン〉〈左〉＝生乾きの土の固まり（硬くなっているもの）を、つるつるのおやスプーンの背を使って掘き上げると、鏡くようなツルツルの表面に変わります。この他、先のとがったもので引っかいたり、絵（模様）を描きます。

〈ブロックであそぼう〉〈下〉＝高焼きの粘土ブロックの積木で、建物や街並みを作ります。粘土ブロックの一つひとつは、同じように見えても、それぞれ表情を違い、形も同一ではありません。素材の持つニュアンスを大切にブロック遊びをします。